



## ～子育てを応援し、子どもの成長を祝福する～

乳幼児教育相談に初めて来られる親子との出会いは、いつも楽しい気持ちが少なからずあります。実際に子どもに会うと、どの子どもとってもかわいいです。手を引かれて、少しお母さんに隠れるような様子を見せる子、最初から元気いっぱいの子、抱っこされてここはどこ？と面食らった様子の子など、子どもたちは色々な表情を見せてくれます。

相談室に入ると、目の前の遊具や音や光の出るおもちゃにどの子ども興味津々です。ここは遊んでいいと気づくと、遊んでみたい、触ってみたという気持ちを抑えられない表情が見られます。まずは子どもが安心して遊びはじめ、十分にリラックスしてきたところで、ゆっくりと保護者の話を聞いていきます。

保護者の中には、子どもの誕生を喜びながら家庭での穏やかな子育てをすることもままならず、見えにくさのある我が子にどんなことをしてあげたらいいだろう、この子の将来が不安、といった気持ちを抱えている方もいます。さらに、見えにくさ以外にも身体の疾患などを抱えていて、見えにくさに関する不安も言っていられないくらい、毎日のように子どもを病院通いさせないといけなかったりする方もいます。そうした状況の中で、今日まで育ててこられた保護者の気持ちを思うとき、「今日まで本当によくやってこられたんですね。来てくださってありがとうございます。」という言葉が自然と湧いてきます。また、保育所等に通っている子どもでも、十分に配慮してもらえるかどうかとか、我が子が受け入れてもらえるかどうかを心配したりする保護者もいます。だからこそ、ここではそんな心配は無用です。出会いを心から喜び、そして子どもの誕生と成長を祝福し、子ども一人一人に合った環境と安心して過ごせる時間を提供できるようにしています。

### ★ 子どもの成長はとっても嬉しい反面・・・

乳幼児教育相談では、保護者と話し合って月に1回など定期的に通っている方もいます。一緒に遊んだり、子どもの好きなことを楽しんだりしていると、月日とともに成長してできることもどんどん増えていきます。

あるとき、子どもが担当者と遊んでいるときに、「最初の頃はお母さんの膝から降ろしただけで泣くこともあったのに、いつの間にかお母さんから少し離れて、お母さんに背中を向けたままでも遊べるようになりましたね。」と、ふとお母さんに言葉をかけたことがありました。お母さんははっとして、「そうでしたね、本当にそうでしたね！」と思い出したようでした。そういえば、病院通いも減ってきたなどと話され、嬉しい反面、子どもの背中を見ることが増え、少し自分の手から離れ始めたことが寂しいと語られた方もいました。

担当者は「そうですね。そして、これからもっともっとお母さんから離れてできることが増えていきますね。」と、子どもの成長をともに喜び合いました。毎日の慌ただしさの中では気づきにくかったのでしょう。改めて、お母さんはようやく心配や不安ばかりではなく、我が子との成長を楽しめるようになったことをかみしめていたようで、乳幼児教育相談の機会がそうしたことを感じられる場となれたことをうれしく思いました。

